福島第一原子力発電所
2025年度第2回ALPS処理水海洋放出の完了

＜　参　考　資　料　＞
２０２５年８月４日
東京電力ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 当社は、2025年度放出計画の第2回として、測定・確認用設備C群からのALPS処理水（約7,800m^3）の海洋放出を、7月14日午前11時33分から実施しています。
- 放出期間中は、ALPS処理水（トリチウム）の希釈が適切に行われているか毎日確認することを目的に、海水で希釈後の水のトリチウム濃度を分析し、トリチウム濃度が計算上の濃度と同程度であることおよび1,500ﾍﾞｸﾚﾙ/ﾘｯﾄﾙ未満であることを確認しています。
- また、発電所から3km以内の10地点および発電所正面の10km四方内の4地点においては、海水のトリチウム濃度の分析結果を迅速に得ることを目的に、検出限界値を10ベクレル/ﾘｯﾄﾙ程度に上げた分析を実施し、トリチウム濃度が放出停止判断レベル（700ベクレル/ﾘｯﾄﾙ※1または30ベクレル/ﾘｯﾄﾙ※2 ）および調査レベル（350ベクレル/ﾘｯﾄﾙ※1または20ベクレル/ﾘｯﾄﾙ※2 ）以下であることを確認しています。

※1　発電所から3km以内の10地点　　※2　発電所正面の10km四方内の4地点

＜2025年8月3日までにお知らせ済み＞

- 2025年度第2回のALPS処理水海洋放出期間中、7月21日に大熊町、双葉町で「竜巻発生確度2」、７月30日に福島県で「津波注意報」が発表されたことから、自然現象に対する安全確保のため、あらかじめ定めた手順に則り、計画的にALPS処理水希釈放出設備を手動停止しました。
- その後、現場の状況をしっかりと確認したうえで、海洋放出を再開しています。
- 測定・確認用設備C群からのALPS処理水の移送が、8月3日午前6時36分に終了し、 ALPS処理水移送ラインの配管内に残っている水（ALPS処理水）の、ろ過水による押し流しが、 8月3日午後0時22分に終了したことをもって、2025年度第2回のALPS処理水海洋放出が完了しました（総放出水量：7,873m^3、トリチウム総量：約2.0兆ﾍﾞｸﾚﾙ）。
- 引き続き、ALPS処理水の安全な海洋放出を安定的に実施できるよう、緊張感を持って取り組んでまいります。

［参考］2025年度ALPS処理水放出計画（1/2）

TEPCO

- 2025年度の放出計画は以下の通り、年間放出回数7回、1回当たりの放出水量約7,800m³、年間放出水量約54,600m³、年間放出トリチウム量約15兆ベクレルを計画。

管理番号※1	移送元タンク※2	移送量※3		放出開始時期
25-1-12	G4南エリアB群（測定・確認用設備 A群に移送） K3エリアA/B群 ※5（測定・確認用設備 A群に移送）	：約8,080m³ ：約910m³	※4 二次処理　：無 告示濃度比総和：0.45～0.55※6 トリチウム濃度　：22万～37万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量　：2.8 兆ベクレル	4月
25-2-13	K3エリアA/B群 ※5（測定・確認用設備 C群に移送） J1エリアE群（測定・確認用設備 C群に移送）	：約6,970m³ ：約820m³	二次処理　：無 告示濃度比総和：0.45～0.62※6 トリチウム濃度　：22万～38万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量　：1.9兆ベクレル	6～7月
25-3-14	J1エリアE群（測定・確認用設備 A群に移送） G5エリアE群（測定・確認用設備 A群に移送）	：約7,300m³ ：約480m³	二次処理　：無 告示濃度比総和：0.47～0.62※6 トリチウム濃度　：20万～38万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量　：2.9兆ベクレル	7～8月
25-4-15	G5エリアE/C/B群（測定・確認用設備 B群に移送）	：約8,970m³	※4 二次処理　：無 告示濃度比総和：0.47～0.62※6 トリチウム濃度　：20万～22万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量　：1.6兆ベクレル	9月

次スライドへ

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「25-1-12」は25年度第1回放出かつ通算第12回放出を表す。
※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。
※3 下線部は実績値を示す。
※4 受入先の測定・確認用タンクA・B群はタンク点検後で残水が無い状態のため、移送量としては合計約9,000m³となる（放出水量は約7,800m³）。
※5 K3エリアA/B群は、2023年度および2024年度に移送・放出により空になったところへ再度ALPS処理水の受け入れを実施。
※6 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値（0.11）およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。
※7 タンク群平均、2025年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値。

［参考］2025年度ALPS処理水放出計画（2/2）

TEPCO

前スライドより

管理番号※1	移送元タンク※2		移送量		放出開始時期
25-5-16	G5エリアB/A群	（測定・確認用設備 C群に移送）	：約7,800m³	二次処理　：無 告示濃度比総和：0.47～0.59※3 ﾄﾘﾁｳﾑ濃度　：22万～26万ﾍﾞｸﾚﾙ/ﾘｯﾄﾙ　※4 ﾄﾘﾁｳﾑ総量　：1.9兆ﾍﾞｸﾚﾙ	10～11月
25-6-17	G5エリアA/D群	（測定・確認用設備 A群に移送）	：約4,000m³	二次処理　：無 告示濃度比総和：0.46～0.76※3 ﾄﾘﾁｳﾑ濃度　：26万～30万ﾍﾞｸﾚﾙ/ﾘｯﾄﾙ　※4 ﾄﾘﾁｳﾑ総量　：2.2兆ﾍﾞｸﾚﾙ	11～12月
	G4北エリアA/B群	（測定・確認用設備 A群に移送）	：約3,800m³		

点検停止（測定・確認用設備 C群タンクの本格点検含む）

25-7-18	G4北エリアA/B群	（測定・確認用設備 B群に移送）	：約3,700m³	二次処理　：無 告示濃度比総和：0.58～0.78※3 ﾄﾘﾁｳﾑ濃度　：26万～27万ﾍﾞｸﾚﾙ/ﾘｯﾄﾙ　※4 ﾄﾘﾁｳﾑ総量　：2.0兆ﾍﾞｸﾚﾙ	3月
	H2エリアJ群	（測定・確認用設備 B群に移送）	：約4,100m³		

➥ 2025年度放出トリチウム総量：約15兆ベクレル

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「25-1-12」は25年度第1回放出かつ通算第12回放出を表す。

※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。

※3 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値（0.11）およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。

※4 タンク群平均、2025年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値。

［参考］迅速に結果を得る測定のモニタリング計画

- 当社は、2023年8月の放出開始以降、下図に示す枠内の14地点で、迅速に海水中のトリチウム濃度を確認するためのモニタリング（検出限界値10ﾍﾞｸﾚﾙ/ﾘｯﾄﾙ程度）を実施しています。なお、「放出停止判断レベル（図中記載）」を超えた場合には、海洋への放出を停止します。

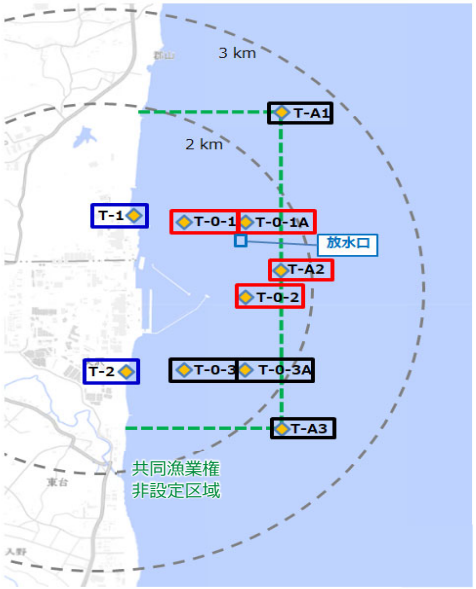

図1　試料採取地点　発電所から3km以内（放水口付近）

□ □ □：迅速に結果を得るモニタリング対象地点（10地点）

指標（放出停止判断レベル）　700ﾍﾞｸﾚﾙ/ﾘｯﾄﾙ

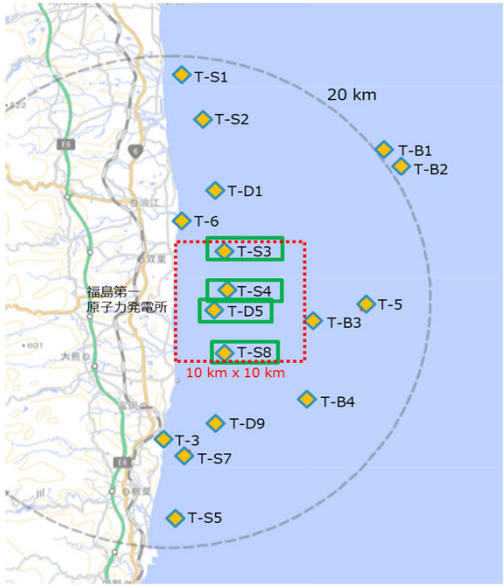

図2　試料採取地点　発電所正面の10km四方内

□：迅速に結果を得るモニタリング対象地点（4地点）

指標（放出停止判断レベル）　30ﾍﾞｸﾚﾙ/ﾘｯﾄﾙ

	【図1】発電所から3km以内（放水口付近）		【図2】発電所正面の10km四方内 4地点 □
	放水口周辺4地点 □	その他6地点 □ □	
放出期間中および 放出終了日から1週間	毎日※1	週2回※2	T-D5:週1回 T-S3,T-S4,T-S8：月1回
放出停止期間中 （放出終了日から1週間を除く）	週1回※2	月1回※2	

※1 放出期間中に荒天のため連続して2日間欠測し、翌日（3日目）も欠測が予測される場合には、3日目はT-1、T-2の迅速に結果を得る測定を行う

※2 2023年８月の放出開始以降、毎日モニタリングを実施してきたが、放出中の実績等を踏まえ、2023年12月26日からモニタリング計画を変更した（2023年12月25日公表）